



2022年5月23日

各位

会社名：株式会社大泉製作所
代表者：代表取締役社長 佐分淑樹
(コード:6618 東証グロース)
問合せ先：取締役管理本部長 鶴本貴士
(TEL:04-2953-9211)

(訂正)「2022年3月期 決算説明補足資料」の一部訂正について

2022年5月13日に公表した「2022年3月期 決算説明補足資料」において、記載内容の一部に誤りがありましたので、下記のとおりお知らせいたします。

なお、訂正箇所には下線を付して表示しております。

記

1. 訂正の理由・内容

「2022年3月期 決算説明補足資料」の提出後に記載内容に誤りがあることが判明したため、提出後の「2022年3月期 決算説明補足資料」の訂正を行うものであります。

つきましては、次ページのとおり下線で示した箇所を訂正いたします。

【訂正箇所】

- ① 14 ページ「中期(22/3期-24/3期) 目標進捗」

【訂正前】

中期(22/3期-24/3期) 目標進捗

OHIZUMI

- 売上高は23/3期で目標に到達、さらに伸長の見込み
- 材料高騰、半導体不足等の影響も、自動化・合理化推進で営業利益率向上を目指す



* 2022年3月期より「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号)等を適用しておりますが、過年度実績との比較のため、2022年3月期以降の売上高、営業利益率は旧会計基準による値で記載しております。

14

【訂正後】

中期(22/3期-24/3期) 目標進捗

OHIZUMI

- 売上高は23/3期で目標に到達、さらに伸長の見込み
- 材料高騰、半導体不足等の影響も、自動化・合理化推進で営業利益率向上を目指す



* 2022年3月期より「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号)等を適用しておりますが、過年度実績との比較のため、2022年3月期以降の売上高、営業利益率は旧会計基準による値で記載しております。

14

※参考として、上記訂正を反映した「2022年3月期 決算説明補足資料」を添付いたします。

以上

2022年5月13日

2022年3月期 決算説明補足資料

センサで世界を測る、未来を拓く。

OHIZUMI

株式会社大泉製作所

- 1. 2022年3月期(21年度)業績**
2. 2023年3月期(22年度)業績予想
3. 中期事業計画(21-23年度)進捗

2022年3月期決算ハイライト

- 需要回復と注力分野伸長で全事業で増収
- 操業度の改善により大幅増益

【売上】

- 車両減産影響を受けるも、電動化領域は前期比+60%に成長
- 空調用は市場拡大と主要顧客内でのシェアアップで大幅増

【収益】

- 増収と操業度改善で材料高騰等のコスト増を吸収
- 繰延税金資産の見直しにより、当期純利益は予想比増加

【期末配当】

- 長期的かつ安定的な配当維持と今後の成長投資を見据え、前期同額(1株当たり8円)を継続予定

損益計算書サマリー

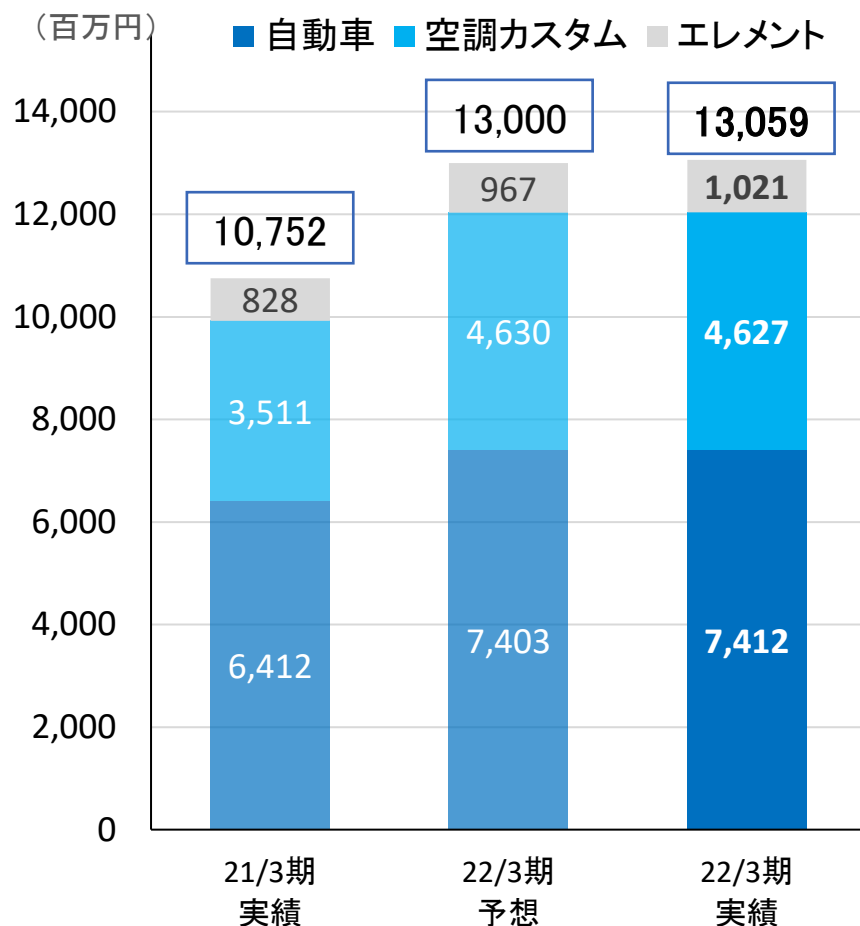
単位：百万円

	2021/3月期		2022/3月期*					
	実績	売上高比	予想	売上高比	実績	売上高比	前期比	予想比
売上高* (新会計基準)			11,850	100.0%	11,882	100.0%		+0.3%
売上高 (旧会計基準)	10,752	100.0%	13,000		13,059		+21.5%	+0.5%
営業利益	314	2.9%	550	4.6%	598	5.0%	+90.2%	+8.9%
経常利益	289	2.7%	500	4.2%	536	4.5%	+85.3%	+7.4%
当期純利益	224	2.1%	330	2.8%	427	3.6%	+90.4%	+29.6%

* 22年3月期予想は2021/11月の公表値を記載しております。

* 2022年3月期より「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号)等を適用しており、2022年3月期の業績予想および実績は有償支給取引に係る売上高の純額表示等を適用した後の金額で公表しております。

通期売上高(前期比、予想比)



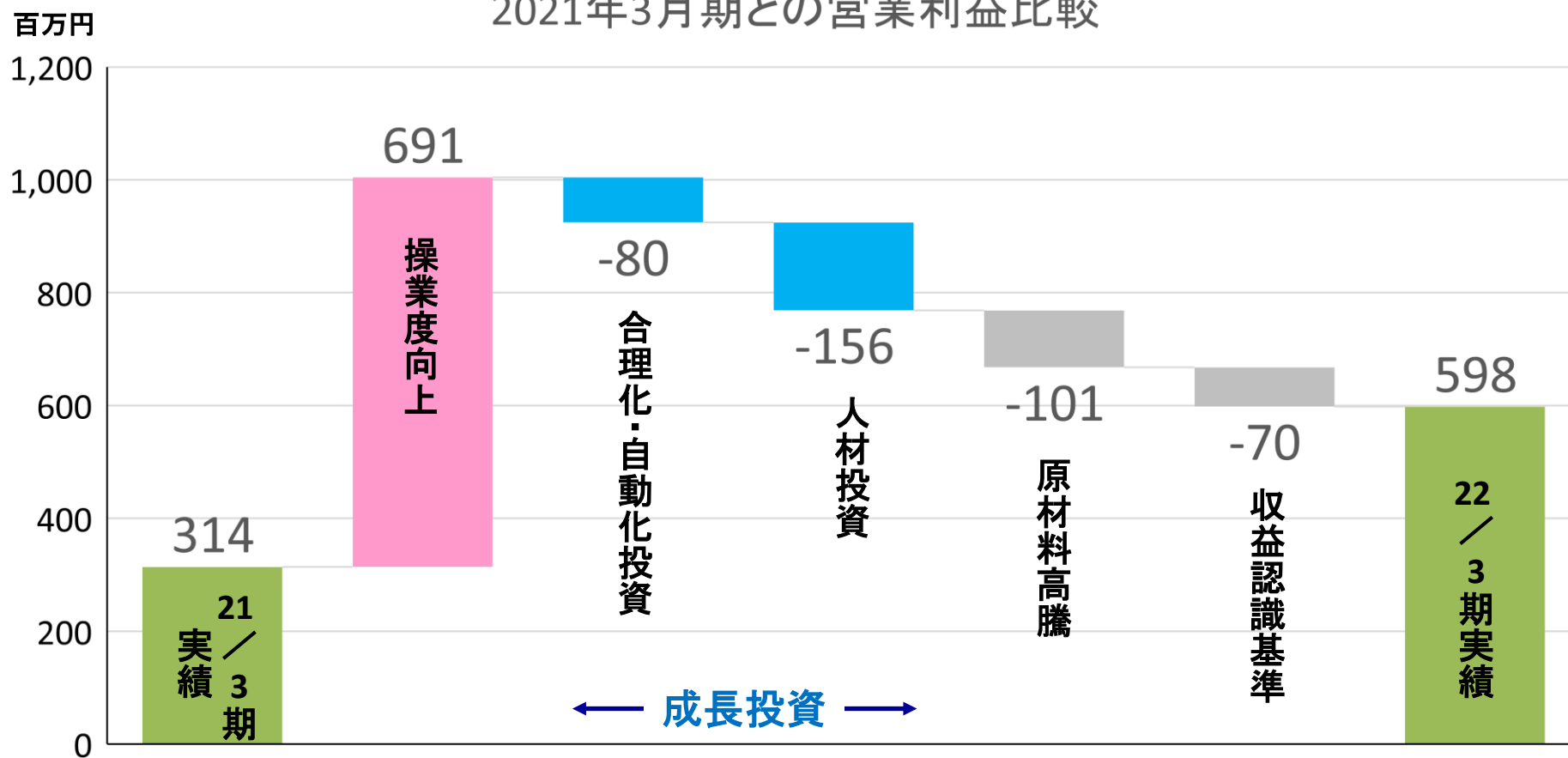
事業	21/3期実績比* (百万円)	増減率*	22/3期予想比* (百万円)	前期比コメント
全体	+ 2,306	+21.5%	+ 59	需要増により全事業増収
自動車	+ 1,000	+15.5%	+ 9	車両減産影響も、電動化領域の数量増が貢献
空調カスタム	+1,116	+31.8%	▲ 3	市場拡大と主要顧客内のシェアアップが奏功
エlement	+ 192	+23.2%	+ 54	光通信用はFTTx* 需要増で基地局用低調をカバー

* 2022年3月期より「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号)等を適用しておりますが、過年度実績との比較のため、2022年3月期予想、実績および増減は旧会計基準による値で算定、記載しております。

* FTTx(Fiber To The x): 光ファイバーを利用した高速データ通信サービスの総称
FTTH(Fiber To The Home)、FTTB(Fiber To The Building)、FTTC(Fiber To The Curb)等を指します。

- 利益増: 受注増、売上増による操業度の向上
- 利益減: 成長投資、材料高騰等によるコスト増、収益認識基準適用

2021年3月期との営業利益比較



2022年3月末 貸借対照表

- 旺盛な受注と各種リスク対応で棚卸資産が増加
- 海外子会社の賃貸契約更新により有利子負債(リース債務)が増加(約3.6億円)
- 自己資本比率は30.6%に向上

(単位:百万円)

◇資産の部	21年3月	22年3月	増減
流動資産	6,642	7,689	+1,046
現金預金	1,703	1,738	+34
売上債権	2,452	2,678	+225
棚卸資産	2,390	3,069	+679
その他	95	202	+107
固定資産	3,474	3,660	+185
有形固定資産	2,990	3,078	+88
無形固定資産	136	132	△3
投資その他	347	449	+101
資産合計	10,117	11,349	+1,231

◇負債・純資産の部	21年3月	22年3月	増減
流動負債	3,703	3,948	+244
仕入債務	1,288	1,316	+28
有利子負債	1,698	1,812	+113
その他	716	819	+102
固定負債	3,697	3,923	+226
有利子負債	3,007	3,247	+240
その他	689	675	△13
負債合計	7,400	7,871	+470
純資産合計	2,716	3,477	+760
株主資本	2,282	2,742	+460
その他	434	734	+300
負債・純資産合計	10,117	11,349	+1,231

1. 2022年3月期(21年度)業績
- 2. 2023年3月期(22年度)業績予想**
3. 中期事業計画(21-23年度)進捗

2023年3月期 業績予想ハイライト

- 注力分野の成長で中期売上目標*を前倒し達成
- さらなる成長に向けた体制強化の年

【売上】

- 電動化領域は二次電池用、熱マネジメント用の数量が増加
- 空調用は市況好調が継続、更なるシェアアップを狙う

【収益】

- 操業度向上による利益増も、投資コストや材料高騰等の環境悪化により利益率は微増に留まる

【期末配当】

- 安定配当として前期同額(1株当たり8円)を継続予定

* 2022年3月期より「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号)等を適用しており、会計基準適用後の売上目標は130億円(適用前目標は140億円)となります。

2023年3月期 損益予想

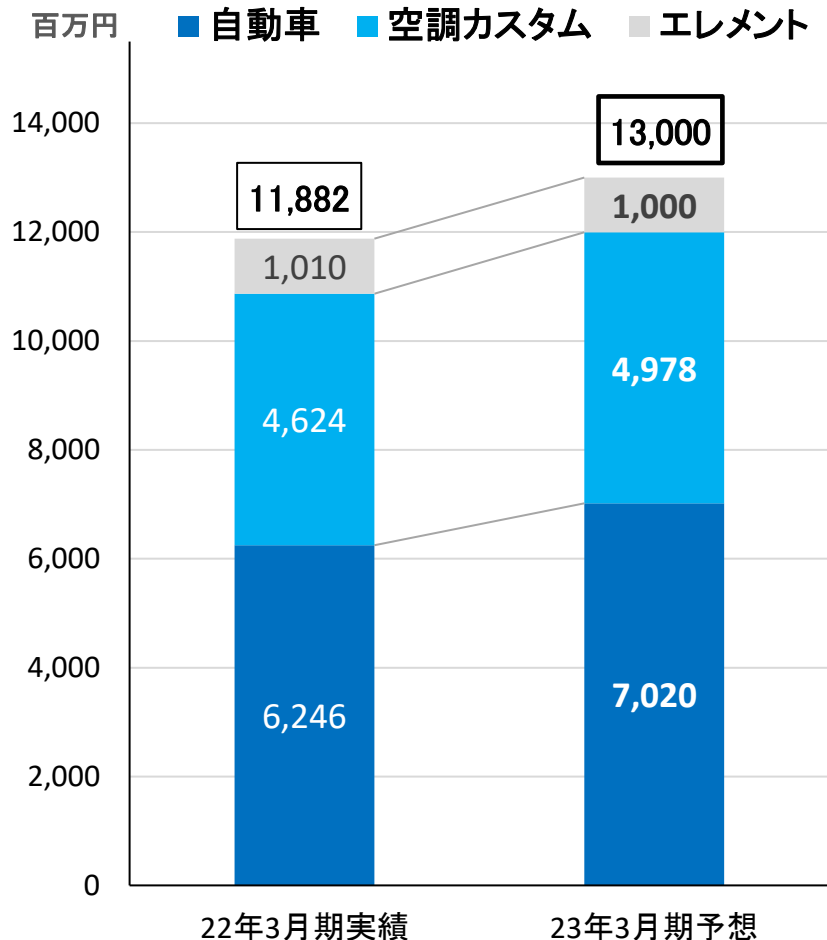
- 前期比増収も投資コストや材料高騰等のリスクから利益率は微増

単位:百万円

	2022年3月期		2023年3月期		
	実績	売上高比	予想	売上高比	前期比
売上高	11,882	100.0%	13,000	100.0%	+9.4%
営業利益	598	5.0%	700	5.4%	+16.9%
経常利益	536	4.5%	640	4.9%	+19.2%
当期純利益	427	3.6%	480	3.7%	+12.3%
為替レート(US\$)	@112.06		@125.00		

* 2022年3月期より「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号)等を適用しており、有償支給取引に係る売上高の純額表示等を適用した後の金額で公表しております。

通期売上高予想(前期実績比)



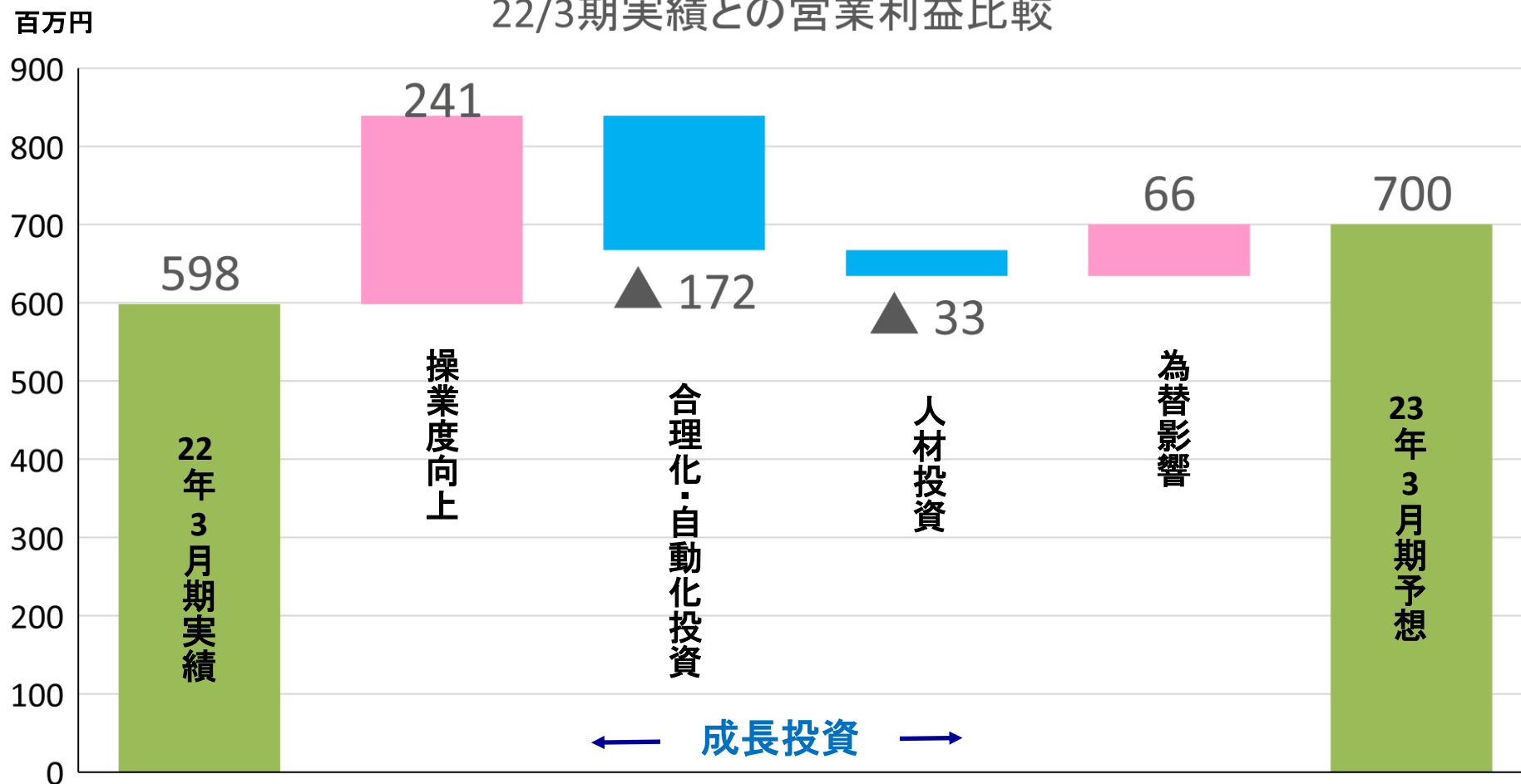
事業	前期比 (百万円)	増減率	通期コメント
全体	+1,348	+9.4%	全事業とも注力分野の売上が増加
自動車	+773	+12.4%	電動化領域は数量増により前期比+30%を見込む
空調 カスタム	+354	+7.7%	シェアアップと市況好調で主要顧客向け売上増
エLEMENT	▲10	▲1.0%	光通信用はFTTx*需要が継続、事業全体では前期並みを見込む

* 2022年3月期より「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号)等を適用しており、有償支給取引に係る売上高の純額表示等を適用した後の金額で公表しております。

* FTTx(Fiber To The x):光ファイバーを利用した高速データ通信サービスの総称
FTTH(Fiber To The Home)、FTTB(Fiber To The Building)、FTTC(Fiber To The Curb)等を指します。

- 利益増：増収に伴う操業度向上、為替(外貨高)影響
- 利益減：成長投資コストの負担や外部環境悪化によるコスト増

22/3期実績との営業利益比較



1. 2022年3月期(21年度)業績
2. 2023年3月期(22年度)業績予想
- 3. 中期事業計画(21-23年度)進捗**

■ 経営目標 : 2023年度(2024/3月期)

売上高	140億円(新会計基準適用後130億円)
営業利益率	8.0% (新会計基準適用後8.6%)

■ 22/3期進捗と23/3期見通し

【売上高】

- 23年3月期で目標を前倒し達成見込み、注力分野の伸長でさらに成長

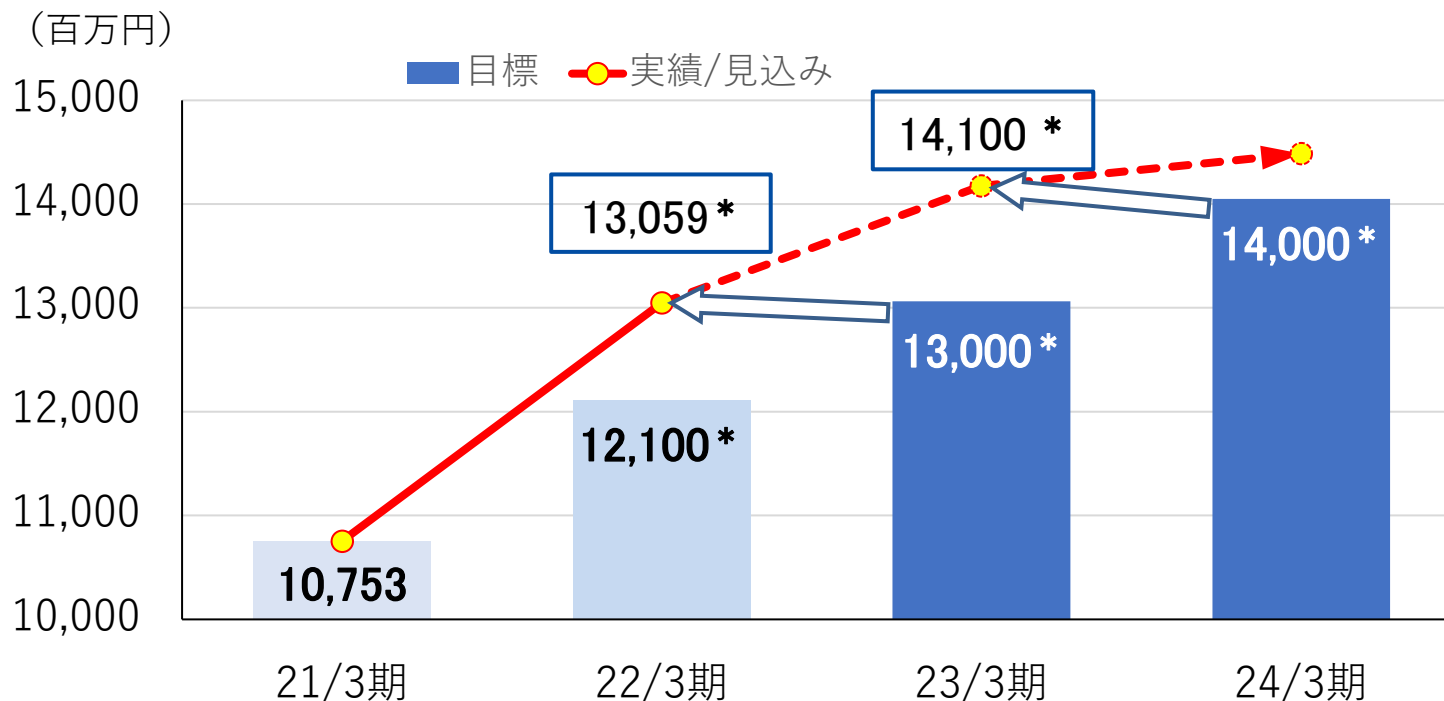
【企業体質強化】

- 22/3期(実績): 空調用及びエレメント製品生産能力増強
- 23/3期(予定): サーミスタ素体工程自動化、組立工程自動化等
- 組織力強化に向けた人材採用、教育を継続

中期(22/3期-24/3期) 目標進捗

- 売上高は23/3期で目標に到達、さらに伸長の見込み
- 材料高騰、半導体不足等の影響も、自動化・合理化推進で営業利益率向上を目指す

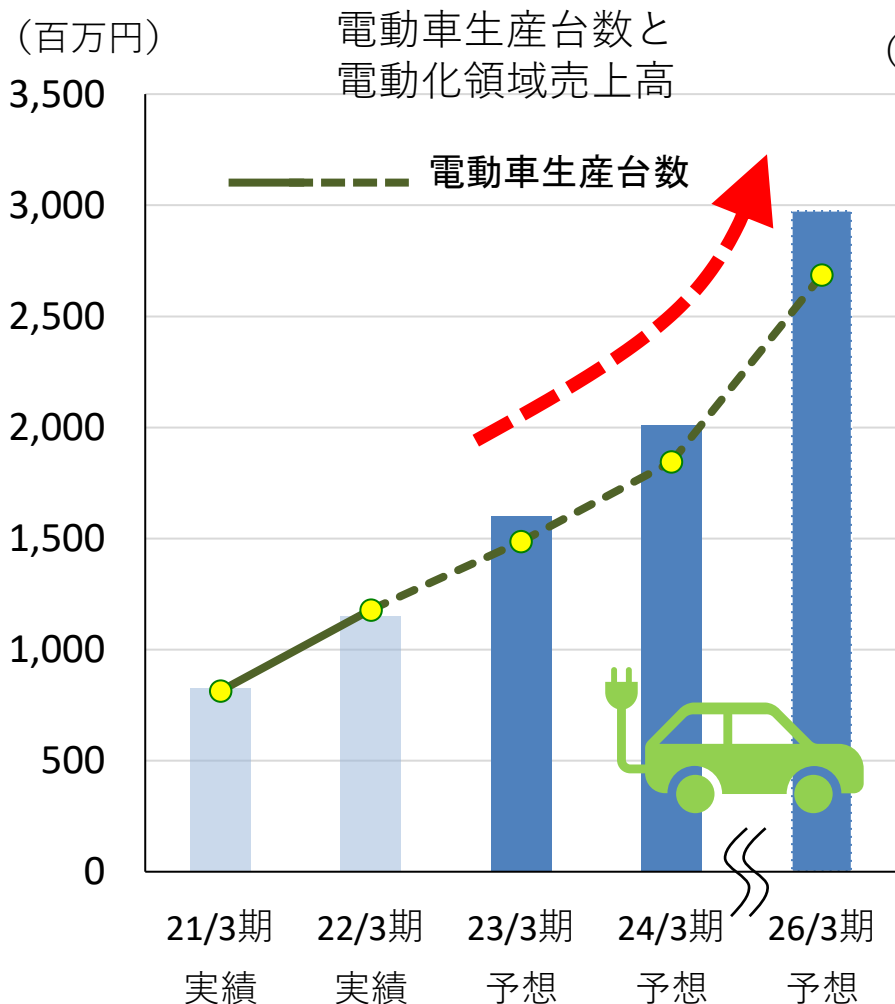
中期売上目標と進捗・見込み



営業利益率*	2.9%	4.6%	5.0%	➡	8.0%
--------	------	------	------	---	------

* 2022年3月期より「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号)等を適用しておりますが、過年度実績との比較のため、2022年3月期以降の売上高、営業利益率は旧会計基準による値で記載しております。

- 車両減産で足元の成長は鈍化も、車両生産増と用途拡大による伸長を見込む



売上伸長の3本柱

【二次電池】

搭載車種の拡大



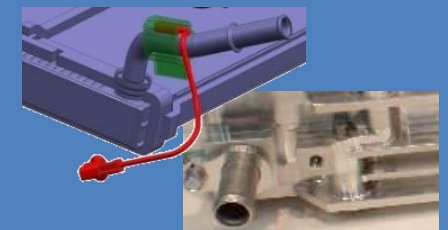
【モーター】

欧州Tier1向け販売開始



【熱マネジメント】

用途拡大による数量増

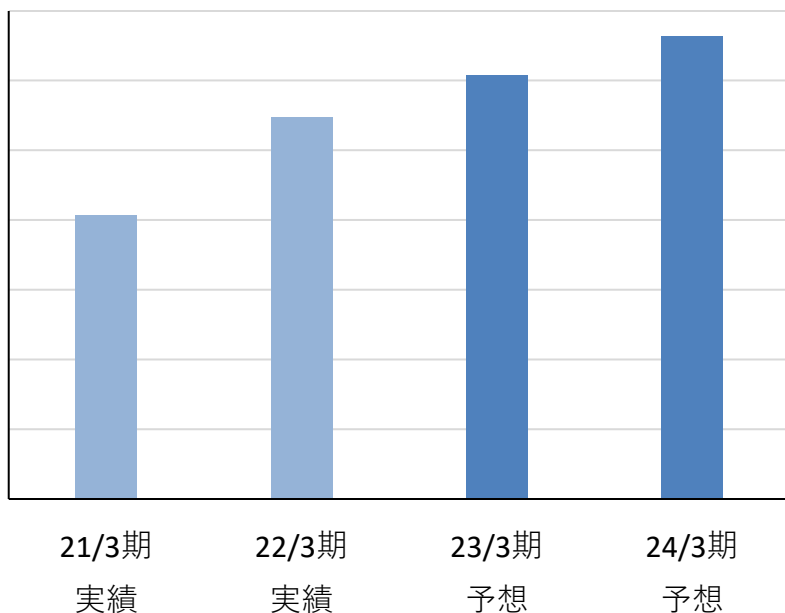


注力分野の見通し【空調・エレメント】

【空調用】

- VE製品を武器にさらなる顧客内シェアアップを狙う
- 環境意識の高まりによるヒートポンプ需要で市場拡大

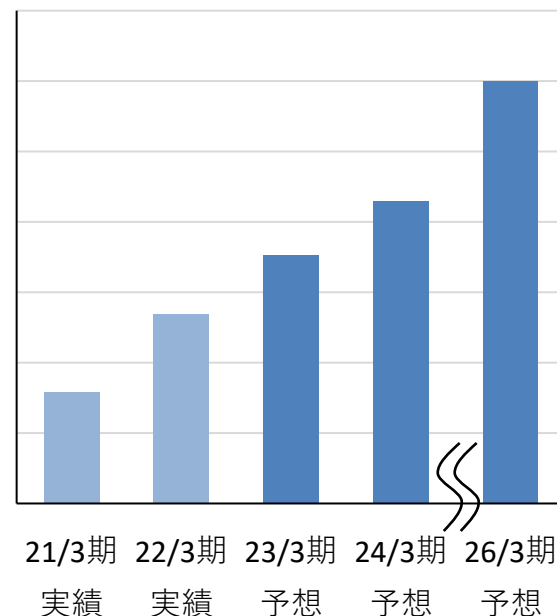
空調用 主要顧客向け売上高



【光通信用】

- FTTx需要による用途拡大で26/3期に向け市場拡大

光通信用売上数量



【FTTx*】

FTTH 個人宅



FTTB ビル・集合住宅



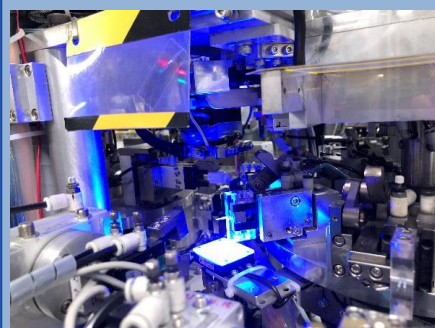
FTTC 建物引込線



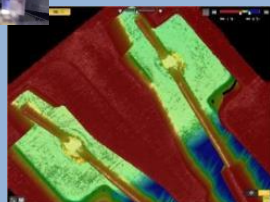
* FTTx(Fiber To The x) : 光ファイバーを利用した高速データ通信サービスの総称
FTTH(Fiber To The Home)、FTTB(Fiber To The Building)、FTTC(Fiber To The Curb)等を指します。

● 積極的な合理化・自動化投資を推進、生産性を向上

自動検査化による工数削減



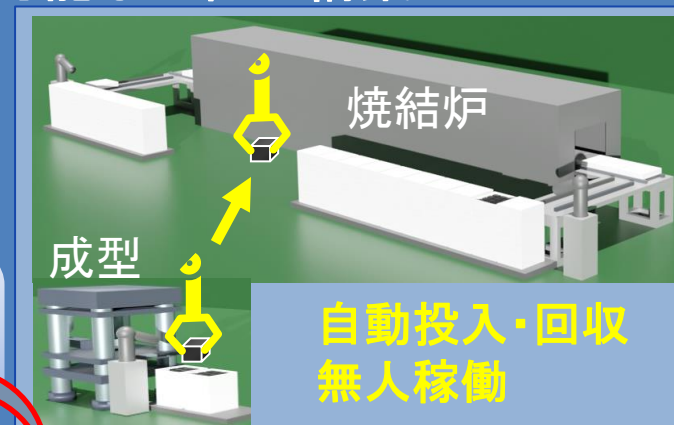
カメラによる
外観検査



画像判定

検査工程

生産規模を1.5倍に増強 自動化による生産効率向上と 無人稼働が可能な工程の構築

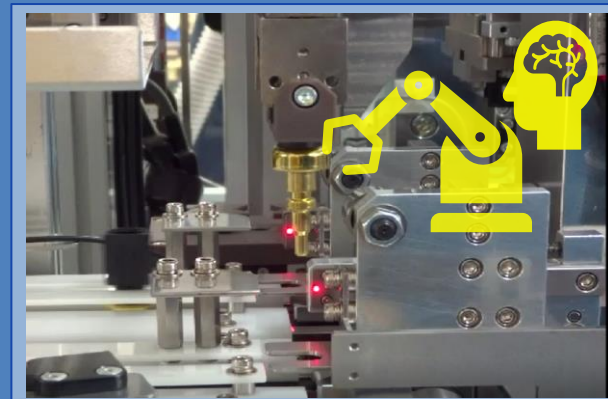


素体工程

工程自動化による競争力向上 生産性改善、原価改善

組立工程

AI組立ロボット導入
自動化・遠隔操作・自動搬送



注意事項

この資料に掲載されている、株式会社大泉製作所の現在の計画、見通し、戦略などのうち、歴史的
事実でないものは、将来の業績に関する見通しであります。これらは、現在入手可能な情報から得
られた株式会社大泉製作所の経営者の判断に基づいており、内容の正確さについては細心の注
意を払っておりますが、掲載された情報の誤りによって生じた障害等に関しまして、当社は一切責
任を負うものではありませんのでご了承ください。投資に関する決定は利用者ご自身のご判断にお
いて行われるようお願いいたします。

センサで世界を測る、未来を拓く。

OHIZUMI

IR お問い合わせはホームページからお願いします。

<http://www.ohizumi-mfg.jp/contact/>